

令和7年度 自己評価シート

1, 教育・保育理念

一人ひとりをよく見て、一人ひとりが持つ「かけがえのない個性」を大事に伸ばしていきたい

2, 教育方針・保育方針

よく見れば精神（一人一人をよく見て、良いところを伸ばし育む）

第三教育（第一教育：家庭 第二教育：幼稚園や学校 第三教育：自ら学ぶ力を育む）

幼稚園目標

- ・元気よくがんばろう（心も体も健康な子ども）
- ・仲良く楽しもう（他人を思いやることができる優しい心）
- ・工夫し考えよう（工夫し、考え、創り出していく力）
- ・豊かに感じよう（心と体で豊かに感じるができる子ども）

3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み内容	自己評価
教育目標・方針	教育・保育方針や目標を理解し、教員間で共有している。	A
教育課程・指導計画	教育要領を理解し、子どもの実態をもとに指導計画、教育目標をたてている。また、月間目標や週案等については日々の子どもの育ちや子どもの成長、興味関心に基づき日々の職員会議にて共有している。今後も指導計画をより意味のあるものとなるよう、必要に応じて見直しを図っていく。	B
幼児理解	日々の保育の中でのエピソードやクラスの様子から、子どもの育ちを捉え振り返り、翌日の保育へと繋げている。個々の持っている良さや可能性を伸ばし自信に繋げていけるよう努めている。	A
安全管理 衛生管理 健康	幼児の安全を第一に、園庭・遊具・室内環境等、細心の注意を図り点検する。幼児の健康に気を配り、日々を過ごす。アレルギーに対する学びを深め、該当する幼児に気を配り保育する。	A
教育内容・指導	個々の年齢・発達に応じ指導や援助を行い、幼児の興味関心を積極的に受け止め、活動を広げていくよう努めている。異年齢交流を積極的に取り組めるよう工夫し、保育形態に取り入れる。2つのプロジェクト（絵本への取り組み・自然環境への積極的関わり）を日常の保育へ取り入れ関心を深められるよう努めている。	B
保護者支援	保護者への伝達を分かりやすく発信するとともに、保護者の話を真摯に受け止め、相手の言いたいことや思いを察することの出来るよう努める。園での様子や家庭での様子を互いに共有しながら必要な支援を行えるよう努める。	B

特別支援教育	発達障害や支援が必要な幼児の特性や接し方の知識を深め、教職員間で共通理解をはかり、園全体で支援体制を整えていく。	B
子育て支援	保護者の子育てについての相談に乗り、思いに寄り添う。また、未就園児教室や預かり保育事業等を通して、情報を発信したり、保護者を支援したりできるよう努める。	B
運営管理 リスク管理	園内での役割分担（係・担当）を明確に区分し運営する。防災、防犯対策等、教職員同志意見を交換しながら、全員で共通意識を持ち行動できるよう努める。個人情報の管理等適切に行う。	B
学園グループとの連携・交流	3 幼稚園、1 施設と連携をとり、情報交換、意見交換を行う。また、園児同志の交流の場を持ち、互いの成長を促せるようにする。	B
保育者の役割 資質・能力	教職員としての自覚を持ち、社会人としての常識をわきまえた行動をとる。教育方針に基づき、教職員も互いに一人一人を大切に受け止め協調性を大切にチームとして連携をとるよう努める。保育に関して内容や指導の仕方について日々模索し、十分準備をした上で実践に生かせるよう努力する。	B
実技	歌・手遊び・楽器あそび・ピアノ・絵画・製作・自然あそび・絵本等日々の保育に生かせるよう日々教材研究をするとともに、努力する。	B

4. 総合的な評価結果

理 由	自己評価
市川学園第2 幼稚園の全体的な行事計画や教育課程、年間指導計画をもとに、子どものよりよい育ちを目指し保育を行った。職員間で、情報の共有や相談、話し合い等を行うことで全員が学年を超えて園児一人ひとりの理解を深めた。 次年度も子どもを中心に捉えながら、教員・保護者とともに協力し合い、情報を共有しながら、成長とともに喜びあえる関係性を確立し保育を深めていきたい。	B

「3・4」の評価結果の表示

評 価	A	達成されている
	B	概ね達成されている
	C	取り組まれているが十分ではない
	D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
地域社会に主体性にかかわることで、社会に参画するとともに、地域と連携を育む。	地域の方と連携し祭り会場の場所を提供するとともに、自園でも祭りを開催し地域に根付いた幼稚園を目指す。
防災や防犯に関して知識を深めながら、教職員間で連携が取れるよう日々意識を向ける。	防災の研修を受け、教員間で伝えあうとともに、実践で動きを確認しながら、臨機応変な対応力を身につける。警察と連携を取り、繰り返しの訓練や方法などを学び備え共有する。
職員間（管理職・担任・預かり保育等）の連携をさらに図れるよう努める。	互いの情報を交換できるよう、意識して時間を取り共有する。 子ども達への対応がスムーズに行えるよう連携を図る。